

陽の里

発行 令和5年10月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <https://www.sun-village.jp/>



No.157

テーマ 『サンビ校の挑戦』

SUN VILLAGE



私はなる、 「生活」を 支えるプロに。

介護福祉士・作業療法士・言語聴覚士

医療・福祉の現場で学ぶ

DX化を推進し、
「もっと知りたくなる授業」を展開

学生一人ひとりが自分の
認知特性に合った学び方を身につける

地域医療・地域福祉の最前線を担う即戦力となる人材を育てる

「挑戦する」



サンビレッジ国際医療福祉専門学校
校長 小林 月子

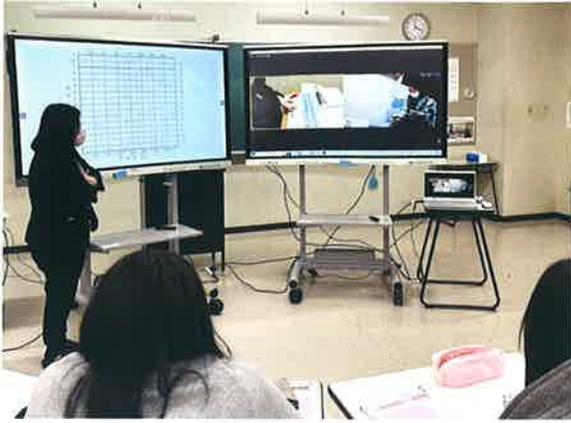
最近サンビ校で、変化が確実に起きています。それは、クラスの活気が高まり、学生がのびのびと楽しそうに授業に参加していることです。自分の意見や感想をためらいながらも述べる、分からないことをためらいながら質問する、こうした風景が日常化してきました。どんな発言も受け止めもらえるから大丈夫、というクラスの雰囲気、仲間と教員への信頼関係があるからできることです。教員から一方的に与えられる授業から、学生が参加し一緒に作っていく授業へと変化しつつあります。外来講師や本校への来訪者が口をそろえて仰るのは「みんなが互いの声に耳を傾けていますね」「日本人と外国人留学生在が和気あいあいと授業に参加していることに感銘を受けました」。

学生は日々こうした人間関係の基本を身につけ結果としてチームとしての達成感を味わっています。大学全入時代の中で、サンビ校の役割はますます明白になってきました。「現場で即戦力となる医療・福祉のプロフェッショナルを育て地域に送り出す」ことです。それを実現するための3本柱を「医療・福祉の現場で学ぶ」「DX化を推進し、もっと知りたくなる授業を展開する」「学生が自分の認知特性にあった学び方を身につける」としました。教職員一人ひとりにとって毎日がその実現のためのやりがいのある挑戦の日々です。

誰もが「分かりたくなる」 授業への挑戦

サンビレッジ国際医療福祉専門学校 総学科長 廣瀬 武

本校では、新たな試みとして「分かりたくなる」授業の実施に挑戦しています。学びには能動性が欠かせません。学生たちが自ら疑問を持ち、調べ学ぶ姿勢を育むことが重要です。そのために、授業には視覚的なイメージや知的好奇心をくすぐる要素を取り入れたり、グループディスカッションや双方向の授業を行っていました。



IT機器を活用して視覚的にイメージしやすく

今年度から、クラスの特性や学生の状況をアセスメントし、それに基づいて、授業計画を立てて授業を実施する「研究授業」を本格的に行っています。介護福祉学科、作業療法学科、言語聴覚学科は、各学科で研究授業を実施する科目を決め、学生たちが興味や関心が沸くような伝え方の工夫をし、IT機器の活用により視覚的にイメージしやすい授業や現場を活用した授業を実施しています。さらに、他の教員も研究授業を参観し、気づいたことなどをフィードバックしています。授業計画を立てて授業を行い、参観した他者からアイデアを貰う。この一連の流れの中で、より「分かりたくなる」授業をすることを目指しています。

教育力は組織力。本校はチーム一丸となって教育力を上げていきたいと思っています。

ファミリィオレンジマーケット

もやい市橋リーダー 小谷友子

もやいの家市橋は、小規模多機能型居宅介護・GH生活援助事業の他に、平成29年から認知症予防や介護相談窓口としてカフェを開催、令和4年からは利用者の役割を兼ねて地域の子供達に向けた駄菓子屋を開催しています。新型コロナウイルスも今年は5類へと移行となり社会も変化をして行く中で、市橋から新たに地域に発信できるものはないかと話し合い、ファミリィオレンジマーケットを開催することになりました。

当日はご近所の方が自分で作った野菜や、特別支援学校と障がい者施設の利用者作品、コストコ



の分け合い・VR体験、職員の知り合いの出展者など10店舗ほどを募り、ご近所の小さなお子様からご高齢の方まで、多世代の方々が誘い合って来苑され大盛況となりました。宮路部門としての団結が実を結び来苑者を含めた参加者全員の笑顔の花が咲いた一日でした。「ファミリィオレンジマーケット」の開催は、地域の方々にもやいの家市橋を広く知って頂き、高齢者や障がい者への理解を深めて頂ける機会となりました。今後も「みぢかなパートナー」として、地域に根差したもやいの家市橋でありたいと考えています。

「しんせい語録」の読み解き

新プログラムには目めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。



障がいではなく人を観る

サンビレッジ大垣 サテライト型特養
上山梨花

特別養護老人ホームに入居してきたNさんは認知症を患っています。そのため、入居している事が理解できず、「こんな所におれへん」「帰らせてもらいます」と一日に何度も自宅へ帰ろうとされます。そんなNさんに職員は、「もう少ししたら送っていきます」とその場しのぎの声掛けをして、更にNさんを怒らせるばかりでした。

なかなか施設に慣れないNさんについてカンファレンスを開催することになりました。

そこで自分たちのケアを振り返り、Nさんに興味、関心を持ち積極的に関わる事からはじめました。落ち着いている時に、隣の席に座り家族の事、若い頃の仕事の事、他愛の無い世間話いろいろな話をしました。そんな関わりの中、Nさんが何を大事にしているのか、何を不安に思っているのか、



どんな人生を紡いできたのか少しですが理解できるようにになりました。Nさんの訴えに対しても、目に見えている情報だけではなく、関わりの中からキャッチできた情報をもとに、本人の心の琴線に触れる言葉掛けができるようになりました。

私たちは、時に認知症のさまざまな周辺症状がみられる方に対して「大変な人」「困った人」と捉えがちです。しかし、一人一人の紡いできた物語を知る事で、より対象者を深く理解し、本人の想いに添ったケアができることを学びました。

vol.38

「サンビレッジの仲間たち」

サンビレッジ瑞穂 渡辺慶一郎

サンビレッジ国際医療福祉専門学校を卒業後、サンビレッジ瑞穂で働きながら数多くのご利用者に関わらせていただきました。最近、ご利用者への声掛けや言葉遣いが、入社当時から変わらず優しく丁寧だと評価を受け、改めて自分が仕事で大切にしていることは何だろうと自分自身を見つめ直す良い機会となりました。ご利用者への声掛けを行う時に、一番大切にしていることは、「相手が傷つく言葉をかけたくない」「自分ならこんな声かけはされたくない」ということです。

そんな言葉を避けてきた結果が、現在の声掛けに繋がるのではないかと思います。また、サンビレッジでも学んだ価値観として「他人とは自分の鏡」という考えを大切にしています。記憶は薄れても感情を察することに敏感になっていくご利用者に対して、一方的な声かけをしても何も好転しません。ご利用者の心の中には、ご家族や馴染みの家から離れて暮らす寂しさや、職員より人生の先輩であるはずの自分が手を借りなければ生活できない歯がゆさ、認知症により自分の思い通りにならない理不尽さなど、様々な感情が渦巻いているのではないのでしょうか。その気持ちに寄り添う姿勢をなるべく忘れないように日々コミュニケーションを取っていききたいと思えます。





トピックス

サンビレッジ新生苑

物故者慰霊祭 2023 6/23



毎年、亡くなられたご利用者の方を偲び法要を行っております。コロナ禍で全体に集まることは難しく昨年よりZOOMを使い、各棟に祭壇を設置し龍徳寺様の勤行を聞きながら故人を偲びました。

(上記ひまわりホール)



コロナウィルスが5類への移行となり、3年振りの新人歓迎会を開催しました。感染対策をしっかりとおこないながら、屋外でBBQと景品盛り沢山のゲームをして楽しい時間を過ごしました。



6月19日かわいい仲間たちがやってきました。ご利用者も職員も絶え間なくアヒルに会いに訪れ、賑やかな日常が戻ってきました。今では皆の「癒し」となっています。



Voice 「ご利用者の声」



毎日届くお弁当は、色々な食材が使われていて、家庭的な味付けが私に合っており、いつも美味しく頂いています。おかげで以前よりも食欲が増しました。見守りもしてもらって大変助かっています。配達の方とお話しができる事も楽しみにしています。これからも毎日楽しみにしています。



配食サービス大垣利用者
浅野 恵子
病気を患い体力的に心配なこともあり、2年前から配食サービスを利用しています。

校舎のない学校



池田町の介護予防教室として、男性だけの料理教室「かがやきメンズ倶楽部」が開催されました。毎月1回、サンビレッジフーズの職員を講師に招き、参加者同士の交流も深めながら、料理の基本などを学びます。

サンビ校



サンビ祭を行いました。サンビ祭とは、学科やクラス、国籍の垣根を越えて交流を深める学内イベントで企画・運営も学生が行います。当日は校内や体育館で謎解きやスポーツ・クイズ大会で盛り上がりました。

ひろとり

SDGsを意識した新聞紙を活用としたゴミ袋作りを始めました。消臭効果・プラスチック削減・ゴミの減量・指先リハビリなど利用者さんと一緒に楽しく社会貢献しています。



ほづみ駅前

ほづみ駅前には、JR穂積駅を中心とした地域イベント「明時(あじ)祭(さい)」に協賛参加しました。施設の一角を使用し、なぞ解きWALKの立ち寄り所・災害発生時の対応を学ぶ場となり、「ミニマルシェ」も同時開催しました。

今年の「サンマルシェ」は、10月21日(土)22日(日)を予定しています。



ホームページもチェック!
各エリア、トピックス、ブログ
毎月更新しております。

<https://www.sun-village.jp/>